

八重山諸島から照射する 沖縄本土復帰50年のイマ

沖縄島の

キリシタ南の島々

映画特集

IRIOMOTE-Island

『緑の牢獄』



監督: 黄イング

YONAGUNI-Island

『ぼちらぬん』



監督: 東盛あいか

『ヨナグニ～旅立ちの島～』



監督: ヴィットーリオ・モルタロッチイ
アズシュ・ハムゼヒアン

2022

8.9 Tue → 8.14 Sun

東京都写真美術館ホール

企画・配給: ムーリンプロダクション

沖縄島の、さらに南の島々で

映画特集

八重山諸島 輝ち照射する
沖縄本土 復帰50年のイマ

国境の島として知られる日本最西端の「与那国島」や、2021年に世界自然遺産に登録された「西表島」など、12の有人島と多くの無人島からなる島嶼群——八重山（やえやま）諸島。地理的には沖縄の中心都市である那覇から400km以上も離れて位置しており、そのために沖縄本島とは異なる独自の歴史と、独特の文化を形成してきた。2021年、沖縄本土復帰50周年という節目を前に八重山を舞台としたドキュメンタリー映画・劇場画が偶発的に複数誕生した。監督たちも個性的だ。台湾からの密入国者の一生を捉えた台湾人監督、忘れ去らうとしている島の言葉のフィクションの力で向き合った島出身の新人監督、それに対して現実を切り取ることで言語の消失危機を描こうとした欧州の二人組監督。どの作品もこの監督も国境の島としての影響によって生じた歴史的文化的影響を色濃く表現した。沖縄という枠組みを越えた異なる歴史を持つ二島を描いた作品をこの機会にご覧ください。

西表島

与那国島

緑の牢獄



監督：東インク

2021年|日本、台湾、フランス|日本語・台湾語|ドキュメンタリー|101分|15,1ch

秘境の島、忘却の炭鉱
越境者はなぜ、この地にとどまったのか

熱帯林に囲まれ「秘境」と呼ばれる西表島。島には人知れず眠る巨大な「炭鉱」があった。廃坑を無秩序に覆う緑、そこを住処とするインシンの群れ、そして廃坑を見つめる90歳の老女——橋間良子。10歳で父に台湾から連れられ、人生のほとんどをこの島で過ごした彼女は、たった一人で誰もいない家を守る。眠れない夜には、島を出て音信不通となった子ども、炭鉱の暗い過去、父への問いかけ——忘れたくても捨てられない記憶たちが彼女を襲う。希望、怒り、不安、そして後悔——彼女が人生最期に放つ静かな輝きが、この一作に凝縮される。

沖縄を拠点として活動する台湾人の黄インク監督が七年間の歳月を費やした渾身の一作。前作『海の彼方』に続き、植民地時代の台湾から八重山諸島に移住した「越境者」たちとその現在を横断的に描く『狂山と海』シリーズの第二弾。

UDCast 対応作品



ばちらぬん



監督：東盛あいか

2021年|日本|日本語・与那国語|カラー|61分|15,1ch

いつでも、どこでも、島の声が聞こえる——
新世代が描く「どうなん」のいま

与那国に積み重ねられた歴史や文化と、今そこにはない監督自身の物語。監督の故郷である与那国島の日常や祭事取材したドキュメンタリー映像と、花、果実、骨、儀式などをモチーフに幻想的に描かれたフィクションの世界が交差しながら物語は進む。大きな時間に個人の経験を重ねることで、そこにいた人々の人生も想像させる。フィクションやドキュメンタリーの枠を超えた、土地と人々の物語でもある。与那国島の言葉で「ばちらぬん」は「忘れない」という意味をもつ。

『映画の新しい才能の発見と育成』をテーマに掲げる世界最大の自主映画の祭典「びわくフィルムフェスティバル」のPEFアワードグランプリを獲得、地元沖縄で行われた期間限定上映では、観客23歳の新人監督が作った自主映画としては異例の速日満員を記録。ドキュメンタリーとファンタジーを掛けあわせたような情景、島の生命力溢れる映像美、監督自身が演者となり、全編与那国語で語れることが大きな話題を呼んだ。

ヨナグニ

旅立ちの島



監督：アズシユ・ハンゼとアン・ヴィットーリオ・モルタロッティ

2021年|フランス|日本語・与那国語|ドキュメンタリー|カラー|74分|15,1ch

失われゆく文化、甘酸っぱい青春
欧州からの視線で見据えた日常の島

沖縄県与那国町。この島には高校がない。若者たちは中学卒業とともに一度は島を離れることになる。別れと再会を予感しながら、多感な10代の日々が学校生活や豊かな自然で戯れる放課後、思春期の本音が漏れる会話を通して映し出される。そして、失われつつある島の言葉「どうなん心強い（与那国語）」や伝統文化がゆっくりと若い世代へ受け継がれる様子が描かれる。本作の監督、イタリア出身の映像作家アズシユと写真家ヴィットーリオのコンビが与那国島に初めて訪れたのは、2018年。最初の滞在時に「少数言語の消滅」というワードの裏側には、一つの世界が消失することだと二人は気付く。その言葉を話す人が少なくなり、その言葉で表されていたはずの風景、文化、関係性もまた変化せざるをえない局面を迎えている。二人は消失の危機にあるコミュニティの真諦を3年間にわたり記録。そうした中で映画のカラが向けられたのは、「日本語」を喋る14歳の少年少女たち。我々が頭の中で描いてきた日本の国境的な与那国像とは打って変わり、島の日常をありのまま描き出す。

トークイベント開催



土日は東盛監督が来場！
上映後トークイベントあり

東盛あいか監督

8月13日(土)『ばちらぬん』13:00の回上映後
東盛あいか監督×山本芳美さん

(都留文科大学文学部教授)

8月13日(土)『ヨナグニ』15:20の回上映後
東盛あいか監督

8月14日(日)『緑の牢獄』13:00の回上映後
西亮太さん×八尾祥平さん

(中央大学法学部准教授) (東京大学大学院総合文化研究科 特任研究員)

8月14日(日)『ばちらぬん』16:00の回上映後
藤田ラウンド幸世さん×東盛あいか監督

(横浜国立大学客員研究員)

8.9(火)	『ヨナグニ』(74分) 13:00~	『ばちらぬん』(61分) 14:40~	『緑の牢獄』(101分) 16:05~
8.10(水)	『緑の牢獄』(101分) 13:00~	『ヨナグニ』(74分) 15:05~	『ばちらぬん』(61分) 16:45~
8.11(木)	『緑の牢獄』(101分) 12:30~	『ばちらぬん』(61分) 14:35~	『ヨナグニ』(74分) 16:00~
8.12(金)	『ばちらぬん』(61分) 12:30~	『ヨナグニ』(74分) 13:55~	『緑の牢獄』(101分) 15:35~
8.13(土)	『ばちらぬん』(61分) + トークイベント 13:00~ (トーク~14:40)	『ヨナグニ』(74分) + トークイベント 15:20~ (トーク~17:40)	
8.14(日)	『緑の牢獄』(101分) + トークイベント 13:00~ (トーク~15:20)	『ばちらぬん』(61分) + トークイベント 16:00~ (トーク~17:40)	

【当日券】一般：1,800円 シニア(60歳以上)・障害者手帳をお持ちの方(介護者2名まで)、中学生以下(3歳以上)：1,200円 学生(大学・専門学校)、高校生：1,500円 各種割引適用されます！ 東京都写真美術館で開催の展覧会、映画の半券提示：1,500円、夫婦50割引(どちらかが50歳以上の夫婦の場合2人)：2,400円 他

東京都写真美術館ホール

JR 恵比寿駅東口改札より徒歩約7分、東京メトロ日比谷線恵比寿駅より徒歩約10分
恵比寿ガーデンプレイス内

TEL: 03-3280-0099 (代表) URL: <https://www.topmuseum.jp>
作品内容問い合わせ先: ムービングドキュメンテーション TEL: 098-996-2898

至 渋谷

東口 動く通路

JR恵比寿駅

日比谷線恵比寿駅 1番出口

恵比寿ガーデンプレイス

TOP MUSEUM